



千葉大学 (千葉県)



千葉大学
Chiba University

①日本人学生との合同授業が充実しています。②見学旅行や博物館・学校との実践的な交流を通して、視野が広がられます。③修了レポートの作成を通して、基礎的な研究能力を身につけることができます。

◇大学紹介

(1)大学の特色と歴史

千葉大学は、1949年に新製の国立総合大学として発足した。現在は、規模、内容とも国立大学法人の上位にある総合大学である。

文学、教育、法経、理学、医学、薬学、看護、工学、園芸の9つの学部に加え、大学院として、人文社会科学、教育学、理学、看護学、工学、園芸学、融合科学の各研究科および医学薬学府、医学研究院、薬学研究院、専門法務研究科が置かれている。

また、附属図書館、医学部附属病院のほか、国際教育センター、総合安全衛生管理機構などさまざまな領域のセンターも併設されている。

学部1、2年生を対象にした普遍教育が充実していること、小・中学校の教員、医師、薬剤師、司法試験の合格率が日本でトップレベルにあることも大きな特色である。

(2)学生数・教員数

- ・学部学生定員:9,825名
- ・大学院学生定員:2,950名
- ・教授、准教授、講師、助教:1216名

(3)国際交流の実績(2009年11月現在)

- ・留学生在籍数1073名(56ヶ国・地域)
- 日本語・日本文化研修生数7名
(うち大使館推薦は4名)

(4)千葉県・千葉市の特色

日本語・日本文化研修留学生が学ぶ西千葉キャンパスは、人口約95万人を有する千葉市にあり、東京から電車で約1時間、成田国際空港から車で約45分のところにある。

千葉県は、四方を海と川に囲まれ、1年を通して気候が温暖で、水と緑の豊かな自然に恵まれている。地域の環境については、千葉県のホームページも参照のこと。<http://www.pref.chiba.lg.jp/>

◇コースの概要

1. コースのねらいと特色

(1)ねらい

- ・アカデミック・ジャパニーズを中心に、高度な日本語能力を養う。
- ・日本に関する専門的な知識を習得する。
- ・将来にわたり研究が続けられるよう、基礎的な研究能力を養う。
- ・実地見学や地域との交流を通して日本理解を深める。

(2)特色

1)日本語学習

- ・日本語能力のレベルに応じた日本語コースに参加し、総合的に日本語能力の向上を図ることができる。

2)日本文化・日本社会に関する学習

- ・日本研究の基礎として、日本事情や日本語に関する多様な授業が履修できる。日本人学生との合同授業であるため、日本人学生の視点や認識との関わりの中で理解が深められる。
- ・各々の専門や日本語能力に応じて、文学部・教育学部・法経学部などの専門科目を選択することができる。
- ・千葉県内のいくつかの地域を実際に歩いたり、博物館や学校との実践的な交流ができる。
- ・全員が各自のテーマを決めて日本語で調査・研究に取り組み、修了レポートとして提出する。

3)日本人との交流活動

- ・日本人チューターとの1対1の交流を1年間続けることができる。
- ・ホームステイや日本文化紹介プログラムに参加することができる。
- ・千葉大学国際学生会(CISG)の活動(チャット・ルーム、ユニバーサルフェスティバルなど)に参加することができる。

2. コースの構成

(1)定員 8名

(2)コース期間 2010年10月1日～2011年9月30日(12ヶ月)

- ・秋学期の授業期間: 2010年10月1日～2011年2月中旬
- ・春学期の授業期間: 2011年4月上旬～2011年8月上旬

(3)コース形態

日本語・日本文化研修生のためのクラスは編成していないが、ガイダンスは独自に行う。

3. 日本語、日本文化・日本社会に関する学習

(1)授業科目の概要

以下の1)日本語科目、2)日本を学ぶ(人文科学系)、3)日本を学ぶ(社会科学系)を中心に、各自の日本語能力や専攻に合わせて履修科目を選択する。

各学期は15週授業がある。科目名の後の〔 〕内の数字は、週当たりの授業回数(1回90分)である。授業科目名にⅠ・Ⅱまたは1・2とある場合、それらは異なる学期に開講される。

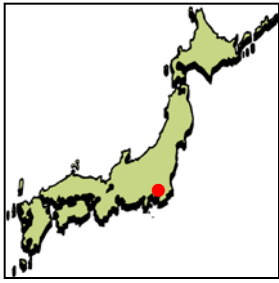
◎のついた科目は必修科目である。

1)日本語科目

千葉大学の中級以上の日本語授業は、6つのレベルに分かれているが、日研究生は、大体以下の4つのレベルのいずれかに入り、3～4科目を受講する。通常、2学期目には一つ上のレベルに進むことができる。

日本語2* (中級後半)	総合〔2〕・口頭表現〔1〕・文章表現〔1〕・読解〔1〕・漢字〔集中:秋学期のみ〕
日本語2 (中・上級)	総合〔2〕・口頭表現〔1〕・文章表現〔1〕
日本語3 (上級前半)	文章表現〔1〕・文章読解〔1〕・口頭表現〔1〕・文法詳解〔1〕
日本語4 (上級)	文章表現〔1〕・文章読解〔1〕・口頭表現〔1〕・発表資料の作成〔1〕

* 日本語2の漢字クラスは選択である。



千葉大学 (千葉県)



千葉大学
Chiba University

①日本人学生との合同授業が充実しています。②見学旅行や博物館・学校との実践的な交流を通して、視野が広がられます。③修了レポートの作成を通して、基礎的な研究能力を身につけることができます。

2) 日本を学ぶ(人文科学系)

①普遍教育科目(国際性を高める)

日本人の精神・伝統文化(=日本事情1)[1]:日本の文化・社会・宗教などを題材にした講義。その題材に基づく、教員、学生とのディスカッションも行う。

現代日本人の生活様式(=日本事情2)[1]:日本社会において見かける(あるいは経験する)であろう社会生活上の慣習を概説し、日本人の精神的な部分を考えるきっかけをつかむ。

戦後日本の食生活Ⅰ・Ⅱ(=日本事情5・6)[各1]:戦後登場した食材あるいは料理を題材に、日本の食文化を概説する。身近な食から日本における文化的・社会的背景を考察する。

日本イメージの交錯(=日本事情9)[1]:日本人学生と留学生が、「日本」をめぐるイメージについて様々な素材・角度によって議論を行う中で、物事を相対的に考える視座を身につける。また、日本人のもつ「〇〇国」イメージなどの検討も加味する。

日本語の特徴1[1]:日本語の音韻や文法を概観するなかで、外国人の誤りやすい様々な問題点などを通して日本語の特徴を考える。

日本語の文法[1]:日本語の品詞における語形変化や文法のカテゴリーについて学習し、受講生の様々な疑問に答える。

日本語の諸相[1]:日本語を、空間的な広がり、時間的な奥行きなどから多角的に認識し、さらには近隣諸言語との関わりを考察する。この科目は、普遍教育科目(教養展開科目コアC関連)に分類される。

◎隣人を知る[1]:あなたの「隣人」(学生や地域の人々)はどのような文化的背景を持っているのか。千葉の文化・歴史を「多文化・多言語」という観点から捉え直す。教室内外の活動および討論が中心となる。

◎特別研究(文系)Ⅰ・Ⅱ[各1]:日本語・日本文化研修留学生を主な対象とし、修了レポートを作成していくための授業である。

特別研究Ⅲ・Ⅳ[各1]:日本の歴史や民俗文化が表象されている博物館を、海外から訪問した人たちがどのような見方や考え方で観賞するとよいかについて考察する。その考察に基づいて展示案内(ワークシート)を企画し、それを母語で作成する。

②学部専門科目

以下の専門科目は日本語・日本文化研修留学生を積極的に受け入れている。*を付した一般学生用の科目以外は、留学生向けまたは留学生に配慮した日本人学生との合同授業である。

文学部専門科目

日本研究入門a・b[各1]、日本を学ぶa[1]
多文化接触論a*[1]

教育学部専門科目

国際理解教育演習Ⅰ・Ⅱ[各1]、日本の教育事情Ⅰ・Ⅱ[各1]
教育記事を読むⅠ・Ⅱ[各1]、日本の情報教育[1]

工学部専門科目

日本建築史*

3) 日本を学ぶ(社会科学系)

①普遍教育科目(教養展開科目:国際性を高める)

時事から日本を考えるⅠ・Ⅱ[各1]:その週に新聞や週刊誌などに載った記事を取り上げる。記事の内容が日常生活にどう関わっているかを講義したあと、日本人学生と留学生が混ざったグループで、その内容について自由に意見交換を行う。

②学部専門科目
教育学部専門科目
日本の政治*[1]

法経学部専門科目

日本経済論*[1]、アジア経済論*[2]、日本経済史*[2]、日本法制史*[2]

※日本法制史、日本経済史は日本史に関する一定程度の知識を有する者が受講できる。

2)、3)の科目はウェブページで詳しい情報を見ることができます。<http://www.chiba-u.ac.jp/student/syllabus/>

(2) 修了レポート

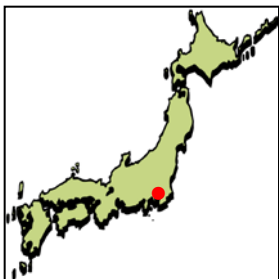
各自の研究テーマで修了レポート(6000字以上)を作成する。演習形式で行われる「特別研究(文系)Ⅰ・Ⅱ」を担当する国際教育センターの5名の教員(専門は日本語学、日本民俗学、日本史、異文化間心理学、日本語教育学)から助言・指導を受けることができる。

学部の指導教員の助言やチューターによる日本語のサポートも受けられる。

毎年7月にはレポートの公開発表会を開催し、その成果はレポート集として刊行している。

◆これまでのレポートのテーマの一例

- ・三社祭の歴史とその社会的役割
- ・アトラクションとショップの関係分析:東京ディズニー・シーを用いて
- ・外国人女性労働者:日本で働いている外国人女性のイメージとその実態
- ・「やつ」の使い方について:昭和の小説を用例に
- ・異なる意見に対する言語行動:女子大学生の友人同士の会話データをもとに



千葉大学 (千葉県)



千葉大学
Chiba University

①日本人学生との合同授業が充実しています。②見学旅行や博物館・学校との実践的な交流を通して、視野が広がられます。③修了レポートの作成を通して、基礎的な研究能力を身につけることができます。



4. 指導体制

(1) 日本語・日本文化研修プログラム担当教員

国際教育センターに所属する以下の教員がガイダンスや個別指導を通して学業面、生活面のサポートを行う。

国際教育センター 吉野 文
(専門:日本語教育学、応用言語学)
国際教育センター 西住 奏子
(専門:日本語教育、語用論)

(2) 学部の指導教員

日本語・日本文化研修生は、専攻希望分野によって、文学部、教育学部、法経学部のいずれかに所属する。その学部の教員1名が指導教員となり、プログラム担当教員と連携しながら、学業面を中心に指導を行う。

5. 見学・交流プログラム

・ホームビジット、ホームステイのほか、大学独自の日本文化紹介プログラムや歌舞伎鑑賞教室等に参加することができる。
・大学主催の「ユニバーサルフェスティバル」(留学生による文化紹介の催し)や、小学校などで行われる国際交流活動に参加して、自分の言語や文化を捉えなおす機会も多い。

10月 ウェルカム・パーティー
11月～1月 日本文化紹介プログラム[浴衣を着る・婚礼衣装の紹介・折り紙・茶道体験・書道体験]
11月 見学旅行[房総のむら・佐原・成田山]
12月 ホーム・ビジット
文楽鑑賞教室
1月 ホーム・ステイ(1泊2日)
6月 歌舞伎鑑賞教室
※このほかにも、所属学部で独自に行われる留学生のための行事に参加することができる。

6. コースの修了要件、修了証の発行

コースの概要に掲げた授業科目を中心に12科目(かつ18単位)以上履修し、修了レポートを提出して合格と認められた者に修了証書を授与する。

7. 単位認定、単位互換など

受講科目を登録し、一定の成績を修めた科目については、単位修得証明書を発行する。

8. 受入れ学生の資格・条件

以下の要件をすべて満たす者を受け入れる。

(1) 日本語能力 日本語能力試験2級合格以上

・会話能力・聴解能力:中級以上の文型・表現を習得し、日本語を使って日常生活ができること。日本語で行われる留学生向けの基礎的な講義や演習を理解することができること。
・読む能力:漢字1000字以上を学習し、一般的な日本語の文章を、辞書を使いながら読むことができること。自分の専門分野の基本的な語が理解できること。
・書く能力:一般的な話題で1000字程度の説明文、意見文を書くことができること。

(2) 日本語学習歴、専攻など

・大学において最低2年間の日本語教育を受けていること。
・日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学していること。
・日本に関係する特定の分野について研究上の関心を持ち、帰国後も研究を継続する意志のあることが望ましい。

・日本に留学した経験のない学生を積極的に受入れる。

◇宿舎

千葉大学国際交流会館(単身用)に優先的に入居できる。寄宿料・共益費(インターネット接続料金込)月額19,000円(光熱水料等は除く)。過去3年間の日本語・日本文化研修留学生は全員国際交流会館に入居している。国際交流会館のある稲毛から西千葉キャンパスまでは電車(一駅)または自転車で通学できる。

◇問い合わせ先

担当部署 千葉大学学生部留学生課
住所:〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 81-43-290-2193 Fax: 81-43-290-2198
E-mail: dgd2197@office.chiba-u.jp
HP <http://www.chiba-u.ac.jp/>

コース内容に関する照会先
国際教育センター 准教授 吉野 文
E-mail: ayoshino@faculty.chiba-u.jp

